

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2770109128		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから百舌鳥西之町		
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥西之町		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成29年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成29年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症という病気を持たれた入居者様がより楽しく安全で且つ、安心して過ごせるよう、個々のニーズ、お気持ちを把握する事に努めております。一番大切なのは、入居者様に対する敬う気持ちや、職員の倫理感の向上です。世間を騒がせている虐待などの行為に至る心境をスタッフとは話合っています。また、当然ながら介護度も変化しています、毎日のご様子をしっかりと観察しいつもと何か違う・・という変化をより早くキャッチできるように朝の申し送りに時間をかけて大きな病気になる前に発見できています。入居者様に対する言葉づかい、態度に注意を図り、質の高いグループホームを目指して我々が常に笑顔で家族のようなやさしい心づかいで関わっていけるよう日々頑張っております。家族様に対しても、いつ来所して頂いても居心地の良い環境をを築くように心がけております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は利用者の残存能力の維持向上と生甲斐作りに、生活リハビリを多く取り入れ、食事やおやつを職員と一緒に作り、楽しんでいる。利用者は食事前の体操、書道、手芸品、また日々の散歩や、ボランティアの協力でフラダンスの練習、カラオケ等楽しみながらリハビリをしている。職員の人間関係も良く、定着率も安定している。利用者、家族からの信頼も厚い。職員間のチームワークも良く、管理者とも常に話し合える風通しの良い関係が利用者、家族に安心感を与えて、利用者同士も仲良く穏やかに生活している。地域との関係も良くなっている。自治会には未加入であるが、運営推進会議を通じて、民生委員、地主さんの仲介で地域行事に参加し地域に慣れ親しんでいる。「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」と、理念に謳っている通りの事業所を目指し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」という理念のもと、職員に意識づけを行っています。	通じ合い、信じあえる(こころ)を育み、健やかな身体(からだ)を維持することを目指す。という法人理念の他に、事業所独自の理念「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」と定め、館長はじめ職員一同は、その実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所との交流を図っています、またご近所の方を施設のレクリエーションに招待したり公民館での催しに参加して交流をはかっています	自治会には未加入であるが、民生委員や地権者(地主)の紹介等で地域の行事であるふれあいサロンに参加したり、祭りの布団太鼓を見学したり、保育所の園児が時々事業所を訪問し交流を図っている。事業所の祭りには地域の人たちを招待し、利用者共々地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員様などにオリジナルパンフレットをお渡しして認知症の理解や支援の方法をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、リハビリマッサージの相談員、施設看護師など出来る限り参加してもらっている、施設運営や職員の入退職、入居者様の現況に加えて家族会も開催している	地域包括職員、民生委員、リハビリマッサージの理学療法士、事業所看護師、利用者家族、事業所から館長が出席し、2カ月毎に開催。現況や計画を説明し、出席者から意見提案等を頂き運営に反映させている。会議の後、家族会での確認や交流を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要事項の連絡、報告は滞りなくできている。特に生活支援課との連絡は密にしており、良い関係を築けている。	生活支援課と介護保険課とは密接に連携をとっている。ホームの現況報告や取り組みなど説明し、助言を頂いたり、各種通達や研修会に参加したり、グループホーム連絡会にも積極的に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や日常にて事例を検討しながら取り組んでいる。	職員は研修等で身体拘束の対象となる行為を理解している。研修受講者が伝達講習を行ったり、館長が言葉による拘束や虐待等、事例を指導している。玄関は普段施錠しているが、利用者の行動で外出願望があれば、適切に誘導し、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	実践できている。一番の理念として高い倫理観の周知、研修を重ねている。虐待に至る心理、日々のストレスが無いように何気ない会話を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、3名の入居者様に後見人がついており、面会時など関わる機会が増えている、制度についても今後研修等で周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践できている。契約時は十分な説明と確認をしている、家族の意向や意見を耳を傾け可能な限り沿えるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、ご家族の意見を聞き検討、勘案し反映できるように努めている。	利用者の希望は普段の生活の中で聴き取り、対話にくい利用者には、態度行動などで判断し、家族とは家族会、運営推進会議、訪問時の話し合いで意向を把握している。面会の少ない家族とは電話で話し合っている。意見希望には添えるよう努めている。	毎月家族にホームだよりを送っているが、「ここからグループ」全体のものである。百舌鳥の独自の便りを作成し、それに各利用者の日常生活ぶりなど、担当職員がコメントを書き込み家族との絆を深めるような工夫があればと、望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りで常に情報の共有に努めています 更に毎月の職員会議では職員の意見や提案を話し合う機会を持てている	各ユニットごとに定例的にユニット会議を開き、月1回の職員会議の前には、館長から、職員一人一人にアンケートで意見希望の提出を求め、それらを議題に会議を開き、意見提案を運営に反映させている。また館長、リーダーは個別に随時職員と話し合う機会を持ち、風通しの良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課面談時に個人的な意見、要望などを代表者に伝える機会を持っている。事務室は開放しいつでも入りやすい、職員の休憩の場でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人スタッフには手厚いトレーニングを設け、まずは施設の雰囲気慣れるように指導している。ベテランスタッフには法人内外の研修機会を設け質の向上に努めている。不安材料はなるべく早く取り除けるように面談を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修にて交流はある、また堺市グループホーム会議にて管理者の交流を深めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴にて本人の意向、要望、現状、生活歴の把握、アセスメントを行い、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との面談は特に時間をかけている、加えて職員からの情報、モニタリング、アセスメントを踏まえた上での支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談、職員からの情報、モニタリング、アセスメントを踏まえた上での支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、買い物など本人の能力に応じて、職員と共に行っている。「大きな家」で共に生活を過ごしているという観点の元で信頼関係を築くように日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議、面会訪問、毎月の経過報告、電話にて意見を伺うなど、家族とのコミュニケーションを図るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みという事を忘れてしまわれている現状があるので難しい面もあるが、生活習慣は大切にできるように支援している（食生活など）	知人が訪問されることがある。事業所では歓迎し、また来訪されやすい様に支援をしている。外食支援では家族の協力で外に出ることはある。馴染みの店や場所で、お菓子屋さんに行ったり、たこ焼きや、お好み焼きの等の希望に関しては事業所に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事、生活リハビリやレクリエーション、行事の準備、買い物、散歩など利用者同志、日々関わりができるように配慮、支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の家族様からも、いつでも連絡がとれるように、また連絡があった時には昔話ができるような居心地の良い環境を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、傾聴、職員間での日常生活の把握、情報の共有、モニタリングを実践している。本人を尊重、意向に沿った生活が継続できるように、日々職員と共に努めている。	日々の生活の中で、又生活歴を家族から聴き取り意向を把握している。試行錯誤しながら暮らし方の希望に沿えるよう、又、会話困難な利用者でも、日々の行動や表情から汲み取り、希望に沿うように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、生活状況のモニタリングを実施し、本人が安心、満足できる日常生活が送れるように職員での周知、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、担当入居者を受け持ち、体調や気持ちに変化が無いが、いつも気にかけている。何か変化があれば申し送り、職員会議などで検討し細かいケアにつなげている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・ケアプランを作る上で入居者様の担当を決めて中心になりカンファレンスを行う、より現状に合った介護計画を作るように努めている	短期3か月、長期6か月で見直している。職員がそれぞれ担当利用者のアセスメントを行い、それを元に館長、計画作成担当者、看護師、担当職員、家族も交えて話し合い、新しい計画を作成する。家族の来訪されない時は郵送する。状況が変わった場合にはすぐに計画を見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のみでなく、職員間で周知できるように別紙記録、申し送り記録にて情報共有し、計画の見直しに活かし、反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じた生活を提供するために職員間でケアを試行錯誤しながら、日々変更できる臨機応変さを持ち合わせている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	博物館、公民館など個人の興味・趣味に合わせて地域資源の活用で楽しみのある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の状態把握を常に行いながら、医療機関との連携を図っている。身体状態に応じた医療機関も提案している。	かかりつけ医は利用者、家族の希望によるが現状は、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、週1回の往診を受診している。他科受診の必要な時は、かかりつけ医の紹介により、その場合は家族に依頼する。家族が不都合な時は事業所に対応している。歯科医は希望者のみ週1回の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状態など異常の早期発見に努めるため、看護、介護職員間で密な連携を図り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時ともに本人が安心して治療、復帰できるように医療機関の職員、医師などと情報交換にて本人が安心して生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が可能な限りホームで生活するために、職員、家族で協同、チーム支援に取り組んでいる。重度化・看取りに関しては書類上の説明も含め共有に努めている。終末期に関しては家族の揺らぐ気持ちに寄り添えるようにしている。	入居時に重要事項説明書で「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」で説明を行い、医師が重度化と判断した場合、改めて看取り対応について話し合い、同意書を交わしている。職員も方針を共有している。過去に数例の看取りを経験し、体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	有事の際はどこに連絡しどのように動くのかはスタッフ間で周知できている。マニュアルは事務所をはじめ、見やすい所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練、避難訓練は行っている。地域との連携については、運営推進会議にて地域の方との連携が密にとれるように発信している	消防署立ち合いも含めて年2回消防避難訓練を実施している。マニュアル、消防設備等は整っている。災害発生時の緊急連絡網もあり、夜間も近くに居住する職員の対応も可能である。隣の地主さんの協力も依頼して、緊急時の備蓄も用意されている。水害時には、上階に避難する。	いつ起こるか分からない災害のために、その時に慌てず落ち着いて行動できるように、頻回に避難訓練を重ねておくことが望まれる。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念として一番大切な本人の尊厳を心がけて対応している。	職員と利用者の関係は良く、職員の定着率も良く、家族、利用者からの信頼が厚い。その中で、なれすぎず、人格を尊重した、態度や、声掛けで対応している。返事の仕方など、言葉による拘束にも注意を払っている。個人情報書類の保管は適正である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表現しやすく、自己決定ができるような家族のような雰囲気作りに配慮し、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズに応じて、本人が過ごしやすい生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や身だしなみは職員と共に行っている。気分転換にお化粧やマニキュアなど楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まずは一緒に作る事や盛り付け、片付けなど職員と共にできている。畑で収穫する事も楽しみのひとつになっている。	業者からのメニュー付き食材を、事業所で専任担当者が調理し暖かい食事を提供し、おやつも作っている。職員も同じものを一緒に食べている。利用者は下ごしらえ、配膳、片付けなどを手伝っている。おやつや、たこ焼き、お好み焼き等好みのものを皆で作り楽しむこともあり、時々外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養状態の把握、疾患により嚥下機能低下の利用者に対しては、ミキサー食やとろみなど本人の状態に応じて、主治医と相談しながら食事形態など考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員と共に実施している。口腔内の清潔のみでなく、嚥下機能向上のためにも、毎食後実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLに合わせた排泄を目指している。安易におむつ介助をしないように個々の状態に応じて排泄の自立に努めている。	排泄リズムを把握し、できるだけおむつを使わないで、トイレで排泄が出来るように支援をし、又、紙パンツを使用している利用者にも、なるべく早目にトイレに誘導するよう支援している。夜間帯も早めに時間を決めて、排泄を促し、漏らした場合はおむつ等の交換をし、気持ちよく安眠できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々リハビリ体操や散歩、腹厚や腸蠕動を促す日常生活動作など考慮し、共に実践している。便秘体質の方には乳製品を摂取していたくなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている。	入浴時間、回数は、本人の希望に合わせ、概ね、週3日の入浴を支援している。季節感を感じられるよう入浴剤を使用したり、職員の提案で、足浴を毎日やって脚の腫れを軽減する工夫も実施している。入浴を拒否する利用者には、時間や担当を代えたり、時には家族に説得をして貰った例もある。2人3人介助での支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が、使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の悪い時を除き、ほとんど毎日散歩に出ている。初詣、地域の祭り、ふれあいサロンなど、又レンタカーを使って遠足することもあり、京セラドームへプロ野球観戦の支援もあった。家族や地域の人たちの協力を得て出かけることもある。裏庭に椅子テーブルを出してお茶と外気浴を楽しむ事もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金をもつことの大切さを理解しており、一人一人の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音・光・色・広さ・温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレなど)が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音・光・色・広さ・温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、いこち良く過ごせるような工夫をしている。	リビング兼食堂には、適当にソファを配し気持ちよく過ごせる空間がある。壁に行事の写真や、大きなカレンダー、利用者の作品が飾られている。浴室、トイレは清潔であり、エレベーターホール入口には、花や、絵画など飾り、訪問者を気持ちよく迎え入れる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは、泊まりの部屋は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人がいこち良く過ごせるような工夫をしている。	ベッド、カーテン、ナースコール、エアコンが備え付けられ、容量の大きいクロークが用意されている。利用者は、使い慣れた調度品を持ち込み、壁に手芸作品や思い出の写真など飾り、継続した生活感があり、使いやすく住みやすく設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人の「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		